

オフィスビル「プレスト1・7」取得

常口アトム（本社・札幌）は、札幌市内で取得したオフィスビル「プレスト1・7」に本社機能を移す考えだ。市内4カ所で分散する各部署を将来的にビル内へ集約する。先行して2025年にも88台収容の機械式立体駐車場の更新を計画。建て替えか全面改修のどちらかで検討を進めている。

（経済産業部 武山勝宣）

993年に総事業費約68億円を投じて建設。みずほ信託銀行への信託事業が終了することに合わせた方針を固めた。

25年にも立体駐車場更新

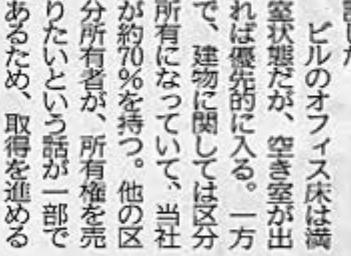
せ、23年に土地（2446平方㍍）と建物を合併して信託受益権を売却する方針を固めた。

7月に契約を結んだ。

常口アトム、本社機能集約へ



清河 智英社長に聞く



北海道建設新聞社のインタビューに応じた清河智英社長が明らかにした。本社機能は、北2条西3丁目のオフィスビルにテナント入居する部署をはじめ4カ所に分かれている。賃料の負担が大きいことから、どこかに社屋を建てるなどの対策が必要だったといふ。更新を計画する立体駐車場をはじめ4カ所に分かれている。

ビルは満室状態であるため、すぐに本社機能を移転できるわけではなく、テナント退去のタイミングで優先的に流入する。

一方、老朽化が進むビル裏の機械式立体駐車場は更新を急ぐ方針だ。建築費が上昇していること

がある。このように、道がある。こうした中、道新築や既存ビル購入の提案などを受けていたこと

がビルを一般競争入札で売却する話が出たため、当社にも入札権利があることが分かり、すぐに検討した。

ビルのオフィス床は満室状態だが、空き室があれば優先的に入る。一方で、建物に関しては区分所有になっていて、当社が約70%を持つ。他の区所有者が、所有権を売りたいという話が一部であるため、取得を進める

主な一問一答は次の通り。

「設備投資の考えは、駐車場のないオフィスは入居の妨げになる。当社の業務は社用車を使うため、兼ねてから対策を考えていた。過去には、新築や既存ビル購入の提案などを受けていたこと

がビルを一般競争入札で売却する話が出たため、当社にも入札権利があることが分かり、すぐに検討した。

（SRC一部S造、地下1地上10階、延べ1万6293平方㍍）は、道有地信託事業により道が1にあるプレスト1・7に全面改修のどちらかで検討を進めている。

「設備投資の考えは、駐車場のないオフィスは入居の妨げになる。当社の業務は社用車を使うため、兼ねてから対策を考えていた。過去には、新築や既存ビル購入の提案などを受けていたこと

がビルを一般競争入札で売却する話が出たため、当社にも入札権利があることが分かり、すぐに検討した。

（SRC一部S造、地下1地上10階、延べ1万6293平方㍍）は、道有地信託事業により道が1

戸数を増やすことに加え、自社で賃貸M/Sを企画して売買したりするこ

とを積極的に進める必要がある」と考える。苦小牧や恵庭でも供給の計画があり、引き続きうつした事例を増やしたい。

「新たな事業展開の考

査結果を練りながら将来に向けて整備を考えた

ことについて。

千歳市内で賃貸マンションの企画開発や売買仲介で4棟ほど関わっている。これまで財政的な事情で開発の事例がなかつた。

しかし、不動産事業を企画したい。サウナを付けるなどこれまでにない

建物を考えている。